

—特集「膵疾患診療のトピックス～基礎から臨床まで～(1)」—



巻頭言

二神 生爾

日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科

依然として膵癌の早期発見は困難であり、かつ膵癌の治療成績も満足いくものではなく、まだ道半ばといったのが現状であろう。今回は、膵疾患のトピックスというテーマで各領域の第一線の先生方に総説をお願いした。膵癌のハイリスク群として世界に先駆けて早期慢性膵炎の概念を作られ、その介入によって慢性膵炎の進展を予防し、膵癌の予防に役立てようとする東北大学の正宗教授の教室の松本先生より早期慢性膵炎から慢性膵炎の進展にはどのような因子が関与しているのか、早期慢性膵炎のガイドラインの変遷を織り交ぜて解説頂いた。なかでも、私も参加させて頂いた早期慢性膵炎の多施設共同研究においてのデータも供覧頂いた。また、本学の本田教授には、膵癌のバイオマーカーとしての ApoA2-isoform の発見とその社会的実装化へのこれまでの道程が述べられており、先生が研究の過程で見出された seeds を実臨床に有益な tool として産み落とされた素晴らしい軌跡が示されている。この特集号が世に出る頃には、先生方も日常診療の中で使えることができるようになっていく筈である。本学消化器内科の金子先生からは、しばしば臨床

的に問題となる IPMN の概説を頂いた。IPMN の自然史はいまだよくはわかっていないが、今後次第に解明されていくことが感ぜられた。最近の大きなトピックスである腸内細菌叢と膵疾患について、本学消化器内科の中村拳先生に概説頂いた。一部の腸内細菌叢が膵癌と関連しているかもしれないという報告は、当時大きな衝撃を与えた。当科の膵疾患と腸内細菌叢に関する最近の研究の一部も紹介させて頂いた。そして外科領域からは、実際の膵癌治療の第一線で活躍されている、本学消化器外科の水谷先生に膵癌の術前化学療法の長所と短所を、そして conversion surgery について概説して頂いた。また、腹腔鏡下膵体尾部切除術の普及に先導的役割を果たした本学消化器外科の中村慶春先生からは、低侵襲性手術の発展性について総括して頂いた。

消化器疾患の中でいまだ病態の詳細が解明されていない膵疾患、難治癌である膵癌に対する各エキスパートの熱意が伝わる素晴らしい総説をご執筆頂いた先生方に心より御礼を申し上げます。